



## 花き生産情報第1号

平成29年4月20日発表  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

---

---

施設内の温度変化が激しい時期です。適正な栽培管理により高品質な花きの生産に努めましょう。

---

---

### 夏秋ギク

#### 1 生育状況

8月上旬出荷の作型で使用する苗の生育は順調であり、病虫害の発生はほぼ見られていない。

#### 2 今後の作業

##### (1) 育苗

ア 挿し芽は定植2週間前から行い、その後、最高温度25℃を目安にこまめな換気等を心がける。定植1週間前からは10℃前後まで温度を下げ、順化させる。

イ 白さび病の発生防止のため、定植前に薬剤による予防散布を行う。

##### (2) 定植

ア アザミウマ類の発生を防止するため、ほ場や施設周辺の古株や雑草などの残さは、速やかに片づける。

イ 8月上旬出荷の作型では、定植を4月下旬～5月上旬の間に行う。

##### (3) 定植後の管理

4月から5月は、天候が不安定でハウス内の温度変化が激しい時期なので、ハウスの開閉をこまめに行い、適正な温度管理に努める。また、低温や降霜が予想されるときは、ストーブ等による加温の実施や被覆資材で保温する。

### トルコギキョウ

#### 1 生育状況

春定植における苗の生育は順調で、定植作業は平年並みの3月下旬から始まっており、病虫害の発生は見られていない。

#### 2 今後の作業

##### (1) 育苗

ア は種直後は発芽適温である20～25℃で管理し、発芽が揃った後は徐々に温度を下げ、15～20℃で管理する。

イ 育苗中は用土が乾燥しないように注意し、十分かん水する。

## (2) ほ場の準備

- ア 土壌酸度の矯正及び基肥の施用は土壌診断に基づき定植2週間前までに済ませ、土に十分なじませておく。
- イ 土壌消毒を行ったほ場では、土壌中の窒素量が増加するため、基肥の量を減らす。
- ウ 初期の水分が不足すると、根の生育が抑制され、切り花品質が劣るので、うねを作る前から水分が下層部へ行き渡るように十分かん水する。
- エ 活着促進のため、早めにマルチングを行って、地温の確保に努める。

## (3) 定植

- ア 8月上旬出荷の作型では、4月下旬までに定植する。
- イ 老化苗は生育が劣るので、本葉が4枚展開するまでに定植する。
- ウ 植え付けは深植えとせず、また、株元を強く押さえないようにする。植え付け後は、土と苗をなじませる程度に軽くかん水する。

## (4) 定植後の管理

- ア 発らいまでは乾燥させないように水管理する。
- イ 低温時には、トンネル、カーテン等により保温に努める。
- ウ 追肥は、生育の状況を見ながら発らい期頃までに行う。

花き生産情報第2号は平成29年5月18日発行の予定です。

~~~~~  
◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

ほ場の準備に当たっては、土壌診断に基づいた土づくりに努めましょう。

~~~~~  
◎農薬の使用に当たって

農薬は適正に使用しましょう。

農薬の飛散を防止しましょう。

農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。

農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。

農薬情報([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報提供システム(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

~~~~~  
◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。

体調やまわりの状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。

- 1 高齢者の事故多発！農作業は、あせらず、急がず慎重に！！
- 2 ほ場への出入りや傾斜地は要注意！機械の転倒・転落を防ごう！
- 3 機械点検時には、エンジン停止！機械への巻き込まれに注意！
- 4 高所作業の際には、周りの状況を確認し、身体の安全を保ちましょう！

~~~~~  
連絡先 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ  
県庁内線 5080  
直通 017-734-9485  
~~~~~